



第4戦 富士スピードウェイ

激しい雨のレースで石浦4位入賞、国本10位完走。

前戦のもてぎから約1ヶ月、全9戦のうち第4戦という中盤戦に差し掛かった2009年度フォーミュラ・ニッポン。舞台は初戦から2度目の開催となる富士スピードウェイ。今回は初戦とは異なり、給油義務付けのないレース。各車、作戦の幅が広がることとなった。

6月27日(土)、気持ちの良い青空の下、予選日を迎えた。Q1は13:45~14:05の20分間。開始時の気温32℃、路面温度45℃。開始と同時にまず国本がコースイン、少し遅れて石浦が後に続いた。ともに10分ほど走行して、マシンやコースの状態を確認するとピットに入り、ニュータイヤを装着。国本はタイヤを交換すると、再びアタックを開始。石浦はその時点で3番手で、タイミングを見てアタックを仕掛けるべくピットにて待機。石浦は、終了6分前のタイミングでコースインし、アタックを開始。2台ともに最終ラップのアタックにてベストタイムを叩き出し、無事Q2へと進んだ。Q2は14:15~14:25の10分間。国本はここでも開始と同時にコースイン。3分ほど走行ののち、ピットへ戻りニュータイヤへ交換。石浦はQ1と同じく残り時間6分の時点で、ニュータイヤを装着してコースイン。国本は1'27.141で10番手、残念ながらQ3へは進めず、ここで予選終了となった。石浦は1'26.129で3番手、Q3へと進んだ。最終ステージのQ3は14:35~14:45の10分間。同じく残り時間6分でコースインし、タイムアタック。1'25.911で、トップとわずか0.28秒という僅差で惜しくもポールポジションを逃しはしたが、フロントローを獲得した。

6月28日(日)、前日と打って変わって、朝から空にはどんよりとした雲が立ち込めていた。朝のフリー走行を終えた頃から雨がポツポツし始め、マシンがグリッドにつく頃には本降りに。14:30、激しい雨のためにセーフティーカー(SC)先導でレースがスタート。3周を終えてSCがいなくなり、実際のレースは4周目にスタート。国本は順位を落とし12番手、石浦はポジションをキープしながらトップを狙う。15周を過ぎて、スローダウンした車両のため、国本は10番手に順位を上げるが、19周で後続車に先行を許し11番手。石浦は、トップとのラップタイム差に苦しみながらも、自己ベストを更新しつつ後車との差も広げながら2番手でトップを迫る。

大きな動きがあったのは34周。コース上でストップした車両のために、再びSCが導入される。このタイミングで多数のマシンがピットイン。石浦も給油のためにピットインし、国本も給油とタイヤ交換を行った。38周が終わって再びレースがスタート。SC先導の間にピットに入らなかった無給油のマシンが2台石浦の前に入り、石浦は4番手に後退。だんだんと燃費が厳しくなる前車を攻めるものの追いつくことは叶わず、4位でチェッカーを受けた。国本も10番手完走でレースを終えた。

土沼広芳 監督のコメント

「富士は今季2回目のレースなので、今回はセットアップも決まってきました。石浦は予選2番手で、ポールを狙えるほど調子は上向き、国本は波に乗り切れず10番手に終わりました。レースは、雨でも晴れでも天候に関係なくきれに行けるほどクルマは決まっていたんですが、SCが入ったこと、無給油のクルマがいたことで、石浦は惜しくも表彰台を逃してしまいました。次の鈴鹿では、2台で上位を争えるよう頑張ります。ご声援よろしくお祈いします。」

#7 国本京佑のコメント

「今回も予選で目標としていたQ3へ進出できず、非常に残念です。でも(土曜の)フリー走行から振り返ってみて、自分の弱点というか悪いところが見つかって、予選でそれを少しずつですが改善できたので、良い方向にあると思います。決勝は、他のクルマももちろん同じだったと思うんですが、ひどい雨のせいでハイドロプレーニングが激しく、どうしてもペースが遅くなってしまうので、なぜ遅いのかを分析して、とにかくまだまだ勉強することが今後の課題です。次は大変な鈴鹿ですが、フィジカル面も鍛えて頑張りたいと思います。」

#8 石浦宏明のコメント

「クルマもチームも確実にレベルが上がってきていて、当たり前のように表彰台争いができるレベルになったことは進歩だと感じています。が、今回は単純に悔しかったです…。予選はあと一步のところまでポールを逃しましたが、クルマ的にはレベルはかなり上がってきていて、走り始めから上位にいられるというのは持ち込みのクルマの状態がかなり良いということなので、前回の茂木と今回の富士とで、今後自信を持ってやっていけると確信しました。決勝はセクター2でハイドロが厳しくてなかなかアクセルを踏んでいけないコーナーがあり、そこで差がついてしまう苦しみとの戦いでした。後車を押さえて逃げることもできたし、給油時間も短かったので、普通にレースが終わってれば2位を取れたという自信はあるのですが、SCのタイミングで(ノーピットの)ギャンブルに出たクルマに前に行かれてしまいました。でもそれは自分の中では問題ではなく、今回は2位を取る実力はあったと思っていますので、この調子で常に上位にいるチームにもっと迫れるように、次の鈴鹿は頑張りたいと思います。」